

# ALTEPIA

社団  
法人 北海道美術館協力会

札幌市中央区北2条西17丁目 TEL・FAX 011-644-4025



「フジタの肖像」吉野会長から高橋知事へ贈呈

昭和52年に組織化された北海道美術館協力会は、昭和54年に社団法人として認可を受

け、平成21年には法人設立30周年を迎え、各種の記念事業を展開してきました。

## 北海道に絵画を寄贈

モディリアーニ 「フジタの肖像」  
松島正幸 「新緑の札幌」



30周年記念事業のメインである絵画の寄贈については、アメデオ・モディリアーニの素描「フジタの肖像」と松島正幸の油彩画「新緑の札幌」を北海道に贈呈しました。

「フジタの肖像」の贈呈式は、10月19日に道庁の知事会議室で行われ、道から高橋知事、理事が列席しました。吉野会長から絵画寄贈の趣旨について説明があり、知事に作品が手渡されました。

知事からは「素晴らしい作品をいただきありがとうございます」とのお礼の挨拶がありました。

この「フジタの肖像」は、近代美術館の「これくしょん・ぎやらりい」にて、1月23日(日)まで開催の「モンパルナスの灯—エコール・ド・パリの群像」で公開・展示されています。

一方、当協会所蔵の「新緑の札幌」は、本年3月24日に近代美術館において、吉野会長から相馬館長に贈呈されております。

(1884年～1920年) イタリアトスカーナ地方リヴォルノ生まれ

### アメデオ・モディリアーニ

1906年、22歳で彫刻家になるためパリに来たモディリアーニは、アカデミー・コラロッシに学び、モンマルトルに暮らしへはじめる。

やがて絵画に専念し、憂いをたたえた独自の画風で、首を長く引き伸ばした様な人物表現に特徴のある肖像画や、裸婦など次々と傑作を描いた。25歳の頃モンパルナスに移り、やがて藤田、キスリング、スチーナと知り合う。

幼少の頃から病弱なモディリアーニは肺結核に苦しめ、1918年、南仏に転地療養をする。モンパルナスのプリンスと呼ばれていたが、制作の過労と飲酒などで持病が悪化し、35歳の若さで亡くなる。20世紀初頭に活躍したエコール・ド・パリを代表する画家の一人である。

AMEDEO CLEMENTE MODIGLIANI

## フジタの肖像

藤田嗣治とモディリアーニの友好関係がいつから始まつたか不明だが、1918年の春から夏にかけて、藤田は夫婦でモディリアーニとその恋人シャンヌ・エビュテルヌらとともに南仏を旅行しており、おそらくその数年前からモディリアーニが没する1920年まで、交友があつたものと推定されている。

藤田が書き残した手紙や文章にもモディリアーニとの交友に言及したものはないが、藤田の1917年頃からの初期作品には、長く引き伸ばされた单纯化されたプリミティフな人体表現など、モディリアーニの明らかな影響が認められる。

藤田は、モディリアーニからの影響を消化しつつ1920年前後に独自の画風を確立するが、当館所蔵の『二人の女』はその過程に位置する重要な作品である。

1919年にモディリアーニによって描かれたと、藤田自身が画面にフランス語で書き込んでいるこのデッサンは、二人の交友を証言する唯一といつてよい貴重な作品である。

エコールとは学問・学派・画派を意味する言葉であり、「エコール・ド・パリ」とは、日本語で表現すると「パリ派」となる。

20世紀のはじめ芸術の都パリに憧れ、世界各国から集まってきた異邦人の芸術家たちが、モンマルトルやモンパルナスを舞台に独自の画風で活動した。パリを舞台に活躍した芸術家たちは、1920年代にエコール・ド・パリとなり、おかっぱ頭にちょびひげという藤田の特徴も良く捉えた作品である。

エコール・ド・パリの交友関係を示すドキュメントとしても、貴重な価値を持つ作品である。

## エコール・ド・パリ

簡略な表現だが、モディリアーニ独特のスタイルがよく出たデッサンであり、おかっぱ頭にちょびひげという藤田の特徴も良く捉えた作品である。

エコール・ド・パリの交友関係を示すドキュメントとしても、貴重な価値を持つ作品である。



アメデオ・モディリアーニ 作「フジタの肖像」 1919年制作  
縦48.5×横20.0cm 鉛筆・紙 種別:水彩・素描

## 藤田 嗣治

(1886年～1968年) 東京生まれ

東京美術学校を卒業後、1913年27歳の時に渡仏した藤田は、ピカソ、モディリアーニ、ヴァン・ゴッホなどと親交を結ぶ。

1920年代はじめに、乳白色のなめらかな地肌に面相筆で黒い線描をほどこす独創的な技法を編み出す。

陶磁器のように滑らかに光り輝く独自の手法は、グラン・ファン・プラン（素晴らしい乳白色の地）と称賛され、一躍エコール・ド・パリの寵児として脚光を浴びる。

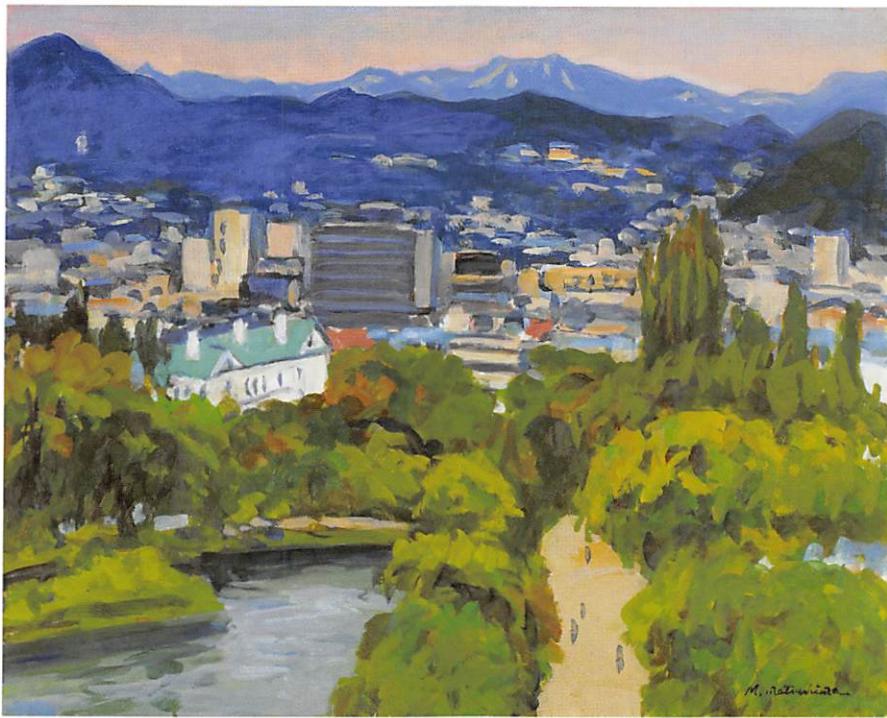
1929年に17年ぶりに一時帰国した後、南米各地や東京で制作する。第二次世界大戦後は、パリに定住し、

1955年（69歳）にフランス国籍を取得する。

1959年にランスの大聖堂で洗礼を受けカトリック信者となり、レオナール・フジタと改名。1961年に、パリ郊外のヴィエ・ル・バクルにアトリエを構える。

1965年（79歳）にランスに礼拝堂の建設を決意。翌1966年に、フジタ自らデザインに携わった礼拝堂の内部に、最後の仕事となったフレスコ壁画を制作し、「平和の聖母礼拝堂」が完成する。1968年スイスのチューリッヒにて、その生涯を終えた。

TSUGUHARU FUJITA



松島正幸 作「新緑の札幌」 1981年制作  
縦72.5×横91.0cm 油彩・キャンバス

アトリエを構えた南仏各地などで描かれた自然や街景は、情緒あふれる筆触のなかに、それぞれの土地特有の光や大気を感じとることができるのである。この作品は、パークホテルから西に向かい中島公園と札幌市街、山々を望んだ景観。画面中央左よ

現在の深川市に生まれた松島正幸は、少年期に上京し、21歳で二科展に初入選。その後独立美術協会展を活動の場として活躍し、その力量が高く評価された画家である。

また、北海道にあつては全道美術協会の創立に参画するなど、道美術界にも大きな影響力をを持ち続けた。生涯を通じて旅を愛し、札幌を中心とする道内各地、青年期に訪れたハルビン、

新緑の札幌



「新縁の札幌」を前に近代美術館相馬館長と協力会吉野会長

りに描かれているのは、大通りから中島公園に移築された豊平館で、新緑に白い壁が映えアクセントを生んでいる。

連なる建築物や、街を覆いこむような自然環境など、この作者の得意とする表現がよく見られる作品である。

当館で所蔵する同作家の道内各地の景観を描いた一連の作品のなかでも、札幌市内を描いたものとして関連づけられ、この作者の作風の系譜をたどる上でも貴重な一点となる。

松島正幸

(1910年～1999年) 北海道雨竜郡一巳村(現深川市)生まれ

- |              |                                    |              |                             |
|--------------|------------------------------------|--------------|-----------------------------|
| 1910年(明治43年) | 北海道雨竜郡一已村(現深川市)に生まれる。              | 1967年(昭和42年) | 第35回独立展でG賞受賞。<br>『《パリーの教会堂》 |
| 1928年(昭和3年)  | 太平洋画会(のちの太平洋美術学校)に入学。海老原喜之助に師事。    | 1977~1983年   | 渡仏、カーニュに滞在。カンヌにアトリエを構える。    |
| 1931年(昭和6年)  | 太平洋美術学校本科卒業。「花を持てる少女」が第18回二科展に初入選。 | 1990年(平成2年)  | 岩見沢市に松島正幸記念館が設置される。         |
| 1941年(昭和16年) | 第11回独立展で協会賞受賞。                     | 1999年(平成11年) | 肺炎のため東京都中野区の病院にて逝去。享年89歳。   |
| 1945年(昭和20年) | 全道美術協会の創立に参画。                      |              |                             |

MASAYUKI MATSHISHIMA

## 札幌市内の参加児童会館から 子供たちの手作りの手紙が届きました。



### 編集だより

- 美術館協力会は昨年、法人設立30周年を迎え、記念式典・パーティをはじめ様々な記念事業を展開し、このたびの「知事への絵画贈呈式」をもって全てを終了しました。皆さまのご支援、ご協力ありがとうございました。
- はじめての試みとして、子供たちが美術への理解を深め、さらには美術館への関心を高めてもらうために「子どもの美術館への招待事業」を企画。北海道造形教育連盟の協力により、札幌市立中の島小学校の6年生、あいの里東中学校の美術工芸部美術コースの生徒を近美に招待し好評を博しました。「子どもの美術館への招待」は、協力会の事業として今後も継続実施していくことになりました。
- ジュニア・アートクラブは、札幌市青少年女性活動協会の協力を得て「あつまれ 未来のアーティスト～ハッピーバルーンで空間を彩ろう～」を講師2名の指導のもとに、札幌市内の児童会館の子供たちを招待して賑やかに開催。後日、参加したあいの里、美園、三角山ミニ、円山西町、しなの、もみじ台、屯田、平和の各児童会館から、当協力会に手作りのかわいらしい礼状が届きました。
- 記念事業として実施したミュージアム・バスツアーは、会員などに大変好評であったことから、継続事業とすることを検討しております。
- 美術館協力会は、30周年を機に新たなスタートをきることになりますが、様々な課題が山積しております。皆様の更なるご指導、ご支援をお願いいたします。